

肥料価格の推移と現状

1 肥料の輸入価格と価格高騰要因

我が国は、肥料原料のほとんどを海外に依存しており、肥料価格は、世界の需給動向、価格動向の影響を受けやすい状況にある。肥料原料及び肥料の輸入先を国別に見ると、尿素は中国(51%)、マレーシア(39%)及びカタール(10%)である。リン鉱石については、中国(38%)、ヨルダン(21%)、モロッコ(18%)及び南アフリカ(17%)、塩化加里はカナダ(71%)及びロシア(16%)で大宗を占めている。

一方、人口増加による食料用穀物需要の増加、BRICsに代表される経済発展著しい国々での穀物から肉を中心とした食生活への変化に伴う穀物需要の増加、米国やブラジルのバイオ燃料の増産等により、世界的に肥料需要は増加している。

このため、肥料原料のほとんどを海外に依存している我が国の肥料原料及び肥料の輸入価格は、平成20年以降急激に上昇している。

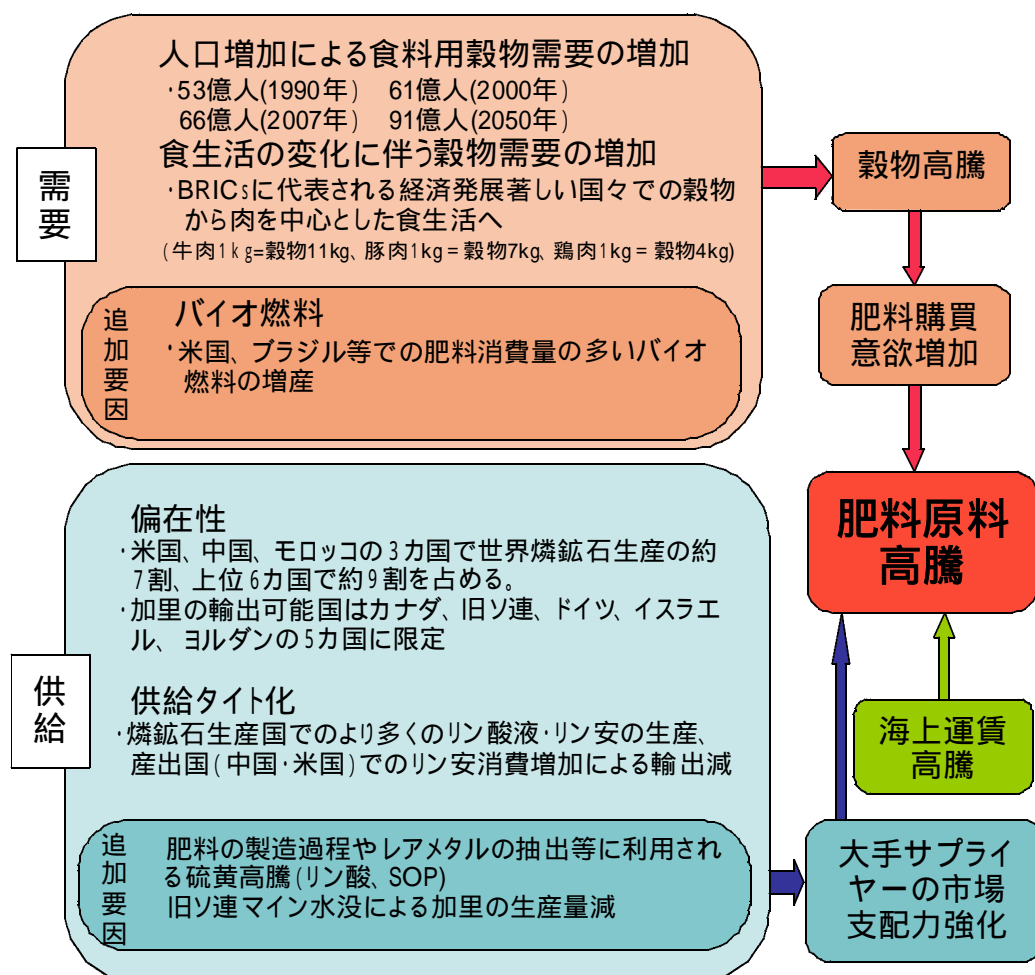


図1-1 肥料原料を取り巻く価格高騰要因

注 農林水産省資料 肥料価格の現状等について

2 肥料価格の推移と現状

肥料原料及び肥料の輸入価格の高騰にともない、国内における肥料価格も同様に高騰している。

J A 全農の県渡し肥料価格の 20 肥料年度(20 年 7 月から 21 年 6 月)の価格改定率は、+ 49.5 %で、肥料価格が安定していた時期と比較して約 2 倍になっている(図 1-2)。

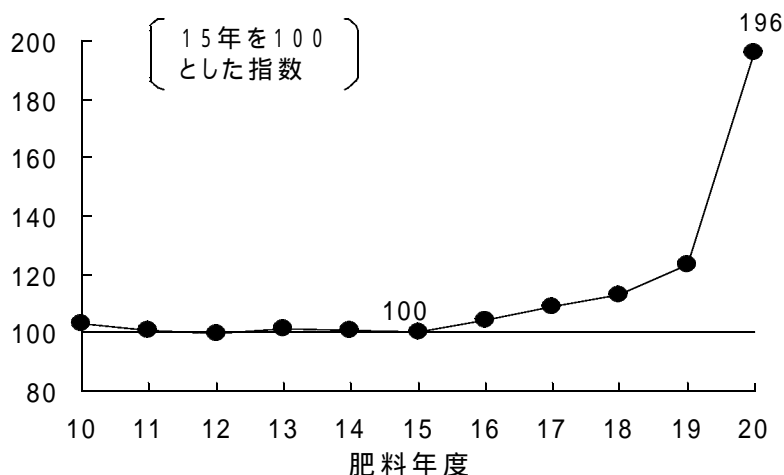


図1-2 J A 全農の県渡し肥料価格の推移

注1) 肥料価格改定率から算定

2) 改定率は、主要 1 2 品目の加重平均。

主要 1 2 品目... 硫安、 尿素、 塩安、 石灰窒素、 過リン酸石灰、
重過リン酸石灰、 ヨウリン、 重焼リン、 塩加、
硫加、 普通化成、 高度化成

また、肥料の物価指数の推移を見ると、平成 17 年から徐々に上昇していたが、平成 20 年 7 月に高騰し、物価指数は 141 となった(平成 17 年を 100)。

国際情勢を反映した今回の肥料価格の高騰は、当面続くと予想される。

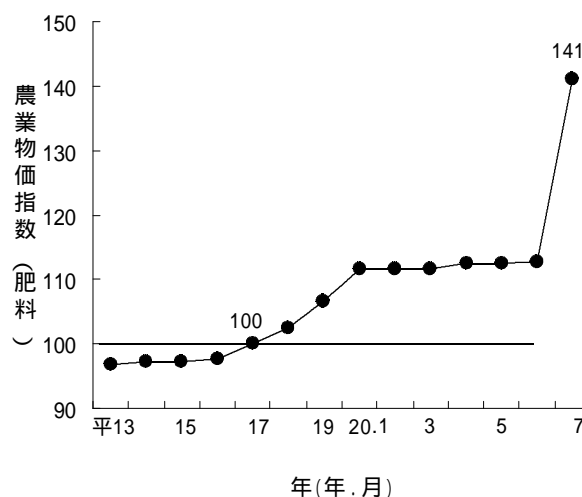


図1-3 農業物価指数(肥料)の推移

注 農林水産省農業物価指数

肥料価格が農業経営費に与える影響

各作目の10aあたり肥料費と経営費中に占める肥料費割合を、経営体育成モデル(平成17年4月農業総合試験場企画普及部)等に基づき試算した。なお、年次別の経営費は農業物価指数及びJAあいち経済連調べ指数を用いて、種苗費・肥料費・農機具費・農薬費・光熱動力費及び諸材料費の変動率を算出し各費用を試算した(図2)。

作目ごとに10aあたり肥料費を平成16年と平成20年(予測値)と比較すると、水稻で約6千円、トマト(水耕)やキュウリでは13万円、バラ・キクは13~18万円、ハウスミカン及びハウスイチジクは約9万円と約5万円増加すると見込まれる。

また、経営費中に占める肥料費の割合は、特に土地利用型作目の水稻やキャベツで高くなり、各々10%から16.9%、8.7%から14.8%となり、経営費全体を押し上げている。

生産物価格の上昇が見込まれない状況では、これら経営費の増加が直接所得の減少につながっている。

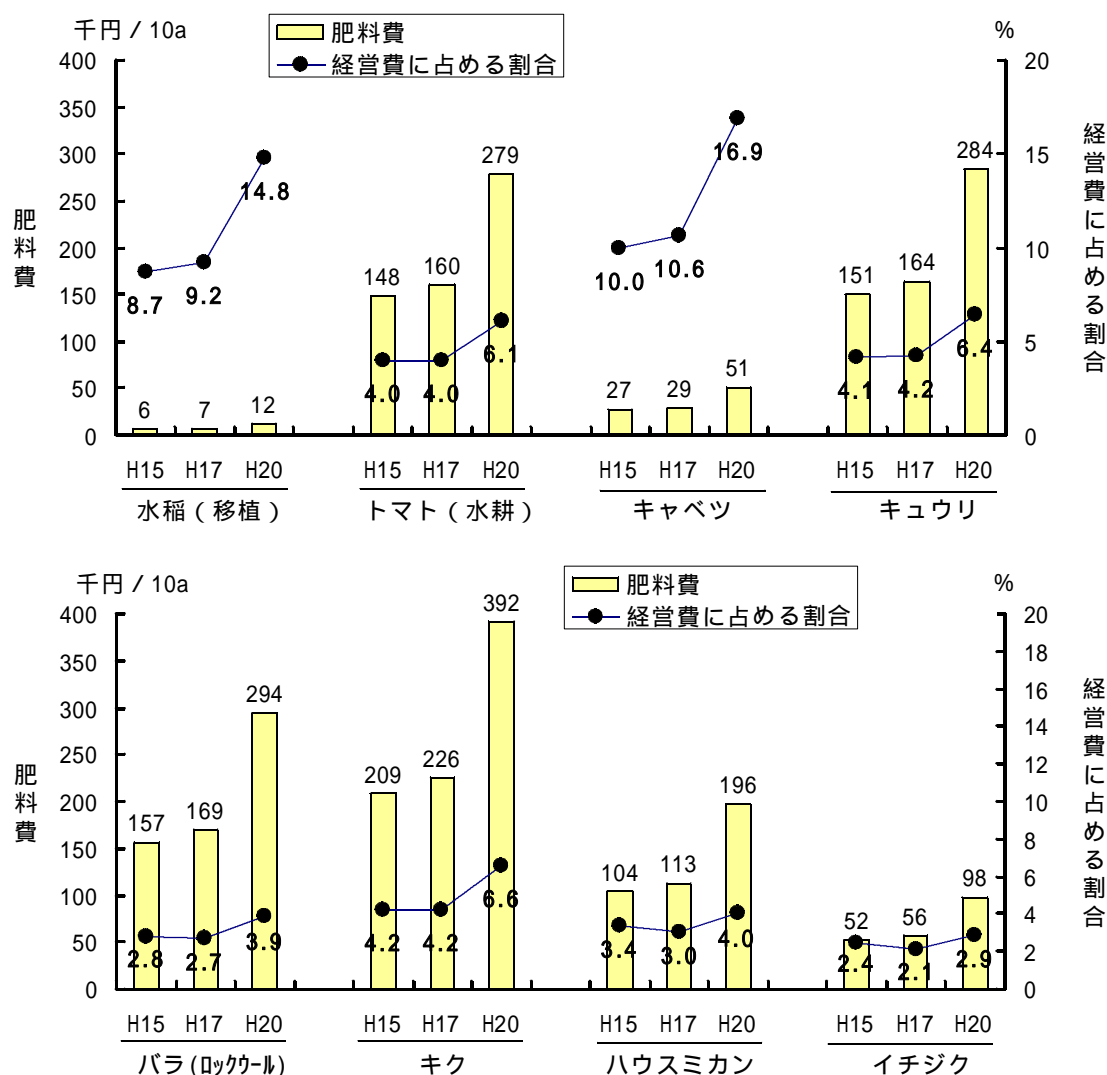


図2 作目別における年次別の10a当たり肥料費と経営費中の割合の推移